

Ai News Paper

エーアイニュースペーパー
2019年12月号/vol.9



Ai News Paper

Event & Program

エーアイニュースペーパー
2019年12月号 / vol.9
interviewer : 白戸 健
photographer : Sin Gim
Dtp : Yu-ryu-

Ai 本祭 2019 展示作品紹介



長町遊楽庵
びすた〜り▶



▲文具ステージ 赤井沢



▲びすた〜りフードマーケット



▲食堂 び〜わん



▲エンドー 時計店

第5回 Art to You!



▲斎藤大輝

10月17日、せんだいメディアテークにて「東北障がい者芸術全国公募展」に、みんなで見学しに行きました。Ai スタッフの斎藤大輝さん、田代智也さん、SAKURANEKOさんの三人が入選しました。



▲田代智也



▲SAKURANEKO

Ai ギャラリー案内

11月15日まで開催された「いまのむかし展 ともあき・やまむら作品」Ai スタッフで作家山村智昭さんの作品についてのお話を聞きました。



次回は11月25日(月)～12月6日(金) 強烈な異文化体験にもとづく作品世界やパフォーマンス、その人生観へと肉薄する King K 個展「Welcome to the Passion Room」開催します。

11月30日(土) 13:00～16:00 入場無料

●スペシャルステージ「King K 生誕祭」13:00～14:00

出演：King K、Ai ファクトリー、ラップインクルージョンほか

●シンポジウム「King K の体験からひもとく異文化体験とアート、そしてまちづくり」14:10～16:00

パネラー：King K (画家)、Andi Holik Ramdani (宗教社会学)

ファシリテーター：門脇篤 (現代アーティスト)

オモテの作品

Ai本祭2019展示作品：ファッションウェアたむら横の掲示板に清水敬太さんの紙芝居作品が展示されました。風景と相まって大変素晴らしい作品になりました。

常に素人の心で見つめていく。

Aiではお互いにフラットな関係を築けるよう、親しみを込めて職員をパートナー、利用者をスタッフと呼んでいます。今回は、深野せつ子さんにお話を伺いました。

白戸：Aiでどんなお仕事をされていますか？

深野：サービス管理責任者をしています。サービス管理責任者というのは、1つ目はスタッフの支援、2つ目はパートナーの研修、3つ目に事業所の運営を行う人のことです。

スタッフの支援はすでにパートナーの皆さんで、できていたので、私は家族との関係をもっと深めたいと思いました。パートナーの研修はできるだけ多く、外からの情報を取り入れ、研修会にも参加してもらうようにしていて、その情報を皆で共有するようにしています。パートナーの資格取得支援も組織として行っています。事業運営については、ここに引越してから利点を作っていなかったため、ギャラリーの活用やイベントを開くなど、工賃に直接関わるようなことをしてきました。

白戸：お休みの日は何をして過ごしていますか？また、何か楽しみはありますか？

深野：日曜日はAiでイベント、研修会などの他に就労移行事業所の副理事長も兼務しているので、休みはあまりないです。それがない時は、読書をしたり、体を休ませている事が多いです。

白戸：Aiでの楽しい出来事や良かったと思った場面があれば教えてください。

深野：いろんな人がそれぞれの才能を持っていて、自分の好奇心がますますふくらんで楽しんでます。皆さんの中に内在する良いところを知る事ができてきたかなと思います。本人も気づかずにいた事などを見過ぎてしまう事がたくさんあるけれど、私は常に素人の心で、見つけたらアプローチしていったことが良かったと思います。今はAiでの仕事が一番楽しいです。

白戸：今後Aiをどんな風にしていきたいですか？

深野：もっともっと楽しいところにしていきたいです。みんながいきいきと仲良く日々活動できて、そして外にアートがちゃんとお仕事になるような楽しい団体として存在していることをアピールしていきたいです。



サービス管理責任者
深野 せつ子さん

「共通テーマ」を自由に創作に活かして。

アートな福祉事業所 Ai ファクトリーの特徴でもある多様なカリキュラム。今回はアートワークショップの時間を担当されている、今野光一先生にインタビューしました。

白戸：カリキュラムの時間は何をしていますか？

今野：「共通テーマ」を設けながら、その中で自由な表現に取り組んでもらっています。

白戸：その狙いはどういうところにあるんですか？

今野：通常、それぞれの制作スタイルで取り組んでいるのですが、季節の変化などを盛り込んだ「共通テーマ」を自由に取り組む事で、普段とは違う新鮮な驚き、工夫、発見につながる、そんな創作表現の楽しさや喜びを感じて欲しいと思います。

白戸：カリキュラムの時間の中であった印象的だったエピソードを教えてください。

今野：本人たちが制作過程の中で思いがけない表現効果への驚きや発見に出逢った時の喜び、楽しんでいる様子を見ていると嬉しくなります。

白戸：このカリキュラムで今後、どんな事を伝えていきたいですか？

今野：個性的な表現をされる皆さんが、他の人の作品に触れる時、いい意味での刺激になり、共鳴、共感しながら、創作表現の楽しさや喜びを感じて欲しいと思います。



外部講師 今野光一先生